



ぶらり らいぶらりい

～図書室にはこんな本があります～

No. 303

★利用者からの質問をもとに昭和館図書室の資料をご紹介します。
(書名の後の()の数字は請求記号です。)

(問) お彼岸^{ひがん}の風習は、世相によって変化したのか知りたい

(答) 図書室の検索端末^{けんさくたんまつ}を使ってどのような資料があるか調べてみましょう。

まず、お彼岸の風習について調べてみましょう。

図書の「ことばから探す」で検索してみます。

図書 ⇒ ことばから探す ⇒ 彼岸 ⇒ 194件ヒット※

日本十進分類法(NDC)を使用して絞り込むのも一つの方法です。

NDCは図書を内容ごとに分類する為の決められたルールで、図書館で本を探す際の手がかりになります。風俗^{ふうぞく}や習慣について調べたい場合は、分類番号「380」番台で検索^{けんさく}する事ができます。

※194件ヒット ⇒ 絞り込み検索 ⇒ 分類で絞り込む ⇒

([図書]大分類一覧) 300: 社会科学 + 「中分類をみる」⇒

([300: 社会科学]中分類一覧) 380: 風俗習慣、民俗学で探す ⇒ 31件ヒット

『日本民俗地図 I 解説書』(382.1/B89/1 地下書庫和図書 060001326)

昭和44年(1969)発行。しきび(お清めに使われる植物)を採取したり、彼岸ごもりでの食事風景の写真が掲載されています。

また、雑誌はその時代の世相を知る手がかりになるので雑誌も検索してみましょう。

雑誌 ⇒ ことばから探す ⇒ 彼岸 ⇒ 142件ヒット※

件数が多い時は、さらに言葉を追加して絞り込みます。彼岸などの風習は、「作法」という言葉を追加すると、より絞り込むことができます。

お彼岸の風習自体には変化は見られないようです。

『主婦の友 第39巻第1号 附録(昭和33年1月)新しい時代の女性の作法』

(051/Sh99/Z39-1 閉架雑誌 100032280)

出版年月を太平洋戦争の期間に絞り、戦争の影響が感じられる資料がないかを探してみます。

※142件ヒット⇒ 出版年月で絞り込む ⇒ 昭和16年12月～昭和20年8月 ⇒ 5件ヒット

『少国民の友 第18巻第12号(昭和17年3月)』(051/Sh96/18-12 閉架雑誌 100035241)
戦時中の小学生向け雑誌。「朗讀詩 お彼岸の道(村野四郎)」亡くなった父の墓参りをする母と子ども。国を守って戦った父親に対し、僕^{ぼく}らも強く立派な人間になると誓^{ちか}う子どもの詩が掲載されています。

図書室には、書棚に並んでいる図書以外にもたくさんあります。

検索端末を使って、読みたい本を探してみてください。

操作方法等、カウンター職員までお気軽にお問い合わせください。





島民によって作られた大島憲法草案



今から 80 年前の昭和 21 年 (1946) 11 月 3 日、日本国憲法が公布されました。国民主権、基本的人権の尊重、平和主義を三大原則に掲げ、戦後民主主義日本の^{いしづえ}礎となっています。

この日本国憲法が公布される半年以上前に、伊豆大島の住民たちの手で、島の独立と自治を目指して憲法制定の動きがあったことをご存知でしょうか。

伊豆大島は東京の南方 120 キロメートルの太平洋上に位置する伊豆諸島最大の島で、明治 11 年 (1878) に島の^{かんかつ}管轄が静岡県から東京府に移り、昭和 18 年 (1943) の都制施行に伴い^{ともな}東京都へ編入されました。戦時中は南方への輸送船や海軍の中^{ちゅうけい}継基地の役割を担い、勤労働員による飛行場の建設、本土決戦に向けて軍隊の編制や陸軍の^{ちゅうとん}駐屯、米軍による空襲被害を経て、終戦を迎えます。

終戦後、GHQ (連合国軍最高司令官総司令部) の^{せんりょう}占領体制が始まり、日本の民主化と非軍事化を目指す占領政策が^{じつし}実施されていくなか、昭和 21 年 (1946) 1 月 29 日、日本の行政権が及ばない地域を定めた覚書「若干の外かく地域の日本からの政治上及び行政上の^{ぶんり}分離に関する件」が出されます。この中に伊豆諸島が^{ふく}含まれていたことから、伊豆大島の住民たちに、日本から切り離されて今後の生活はどうなるのかとの不安が広がります。

この^{きんきゅう}緊急事態に対応すべく、伊豆大島の村長や各界の代表者らが集まり開かれた会議上で、^{もとむら}元村 (現・大島町元町) 村長の柳瀬善之助がアメリカの軍政下におかれることを考慮し、民主主義を自主的に^{じっせん}実践し、将来を見据え島民の生活の安定を計り、世界平和に^{きよ}寄与すべしと^{うた}訴え、憲法の制定を提唱し賛同を得ます。

これを受け、柳瀬善之助を中心に^{たかだもりきち}高田森吉、^{しもだごろう}下田五郎、^{たかぎきゅうたろう}高木久太郎、^{すずきさぶろう}鈴木三郎、^{たちき}立木猛治、^{あめみやまさじろう}雨宮政治郎の 7 名で憲法草案を検討する元村起草委員会が組織され、昭和 21 年 (1946) 3 月上旬、二度と戦争を繰り返すまいとの深い反省から、平和への^{きばん}願いを基盤とする大島憲法草案が作成されました。

この大島憲法草案は、日本国憲法の前文にあたる「大島^{だいせいげん}大誓言」と「統治」「議会」「執政」の 3 章 23 条から構成されています。司法に関する規程はないものの、「大島ノ統治権ハ島民ニ在リ。」と島民主権を^{うた}謳い、日本国憲法の国会にあたる「議会」、内閣にあたる「^{しつせいふ}執政府」を作り、男女^{ふつう}普通選挙や島民の要求により、議会に対して解散や執政府へ不信任を要求できる体制を整え、権力を分立させています。

完成直後の昭和 21 年 (1946) 3 月 22 日、GHQ より分離指定解除が通告され、伊豆大島が日本に復帰したことから、憲法草案は不要なものとして立ち消えます。

しかし、大島憲法草案を読むと、終戦後の混乱期に起草委員の中に法律の専門家もいないなか、短期間で憲法草案を作りあげた伊豆大島の人々の島を自分たちの力で守ろうという^{きが}気概が伝わってきます。

【参考文献】

『幻の大島憲法草案』(323/F93 閉架一般 060006314)

『伊豆諸島東京移管百年史 下巻』(E213.6/I99/2 地下書庫江波戸図書 080003329)

『戦後経験を生きる』(210.7/038 閉架一般 000045385)